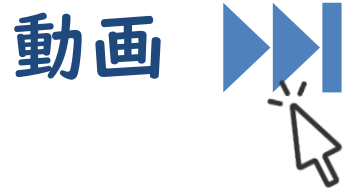


第4章 JavaScript入門



[CTRL]キー

を押しながらクリックすると別ウィンドウでYouTubeがみれる

第4章 JavaScript入門

JavaScriptの書き方

■ scriptタグの中に記述（本書での記述方法）

```
<script>  
  alert("こんにちは");  
</script>
```

■ 外部ファイルに記述

```
<script src="JavaScriptファイルのパス"></script>
```

書き方のルール

- 基本的に半角の英数字と記号のみを使用します。
 - └ 「'」か「”」で括れば全角文字も利用可能です。
- 大文字と小文字は別の文字として扱われます。
- 命令文の末尾には「;」をつけます。
- ひとまとまりの命令群を波かっこ{ }で囲みます。
 - └ 囲まれた範囲をブロックと呼びます。
- 改行や半角スペースは自由に挿入できます。

改行やスペースの活用例

 例 プログラムA (改行とスペースを使わない)

```
for(i=0;i<10;i++){alert(i);}
```

 例 プログラムB (改行とスペースを使う)

```
for(i = 0; i < 10; i++) {  
    alert(i);  
}
```

インデントとは

- 見やすいように字下げを行うことです。
 - └ 空白スペースやタブなどを用います。
 - └ 波かっこの対応関係が一目でわかるようになります。

コメントとは

- メモを書いたり命令を無効化したりできます。

文法 一行コメント

```
//alert("こんにちは");
```

文法 複数行コメント

```
/*  
コメントとして記述した内容は、  
スクリプトには影響しません。  
*/
```

第4章 JavaScript入門

データの扱い方

変数の作り方

- メモリ上に変数を作る作業を変数の「宣言」と言います。
- 変数は名前を付けて管理できます。

文法 変数宣言の書式

```
var 変数名;
```

例 xという名前の変数を作る

```
var x;
```

変数の使い方

- 変数を作った直後は空の状態です。
- 変数にデータを入れるには代入を行います。
- 宣言と代入は1行にまとめて同時に行うこともできます。

文法 変数へ値を入れる

```
変数名 = 値;
```

文法 宣言と代入を同時に行う

```
var 変数名 = 値;
```

JavaScript から画面にデータを出力する

- `document.write()`で簡単に値を画面に出力できます。
 - └ ※簡易的ですが実務は推奨されない命令です。

文法 変数へ値を入れる

```
document.write(表示するデータ);
```

結果位置

```
<body>  
  <div>  
    <p>こんにちは</p>  
  </div>  
</div>
```

この位置に出力される

第4章 JavaScript入門

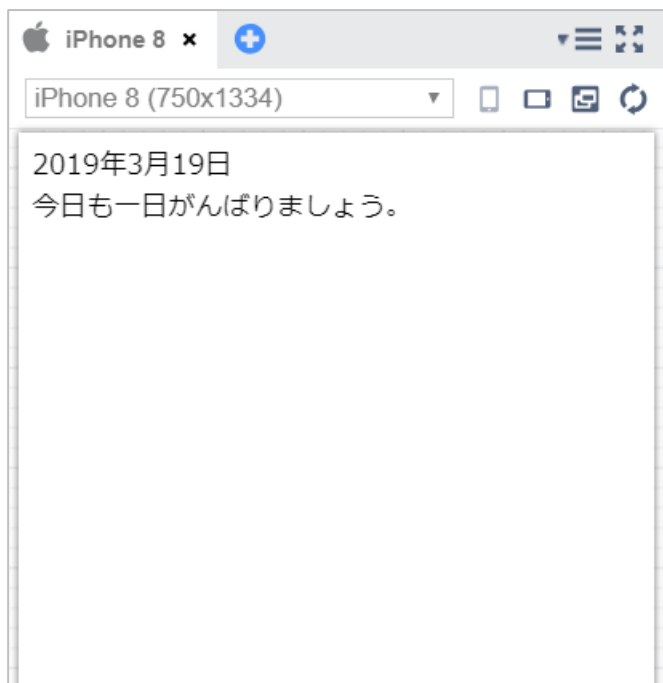
実習

実習

- index.htmlのscriptタグ内とbodyタグ内を編集して下さい。

```
<script>
  var today = "2015 年09 月13 日";
  document.write(today);
</script>
</head>
<body>
  今日も一日がんばりましょう。
</body>
```

結果



今日の日付をプログラムで取得する方法

■ 日付オブジェクトの準備

```
var 変数 = new Date();
```

■ 年を取得する命令

```
変数.getFullYear();
```

■ 月を取得する命令

```
変数.getMonth();
```

■ 日を取得する命令

```
変数.getDate();
```

実習

- index.htmlのscriptタグ内を編集して下さい。

```
<script>
  // 日付に関する命令を使えるようにする
  var date = new Date();
  // 年、月、日の取得
  var year = date.getFullYear();
  var month = date.getMonth() + 1;
  var day = date.getDate();
  // 日本の表記にする
  var today = year + "年" + month + "月" + day + "日";
  document.write(today);
</script>
```

※コメント部分は記述しなくても問題ありません。

今日の日付だけでなく、翌日の日付も表示するようにしてください。

翌日の日付は

```
変数.setDate(変数.getDate() + 1)
```

とすることで翌日になります。(※変数の部分は同じものを使っていても違うものを使っていても大丈夫)

入力ができたら、メニューバーの保存ボタンを押してください。保存されたら、「Web公開」して発行されたURLを進捗シートにコピーペーストしてください。